



行政とは？

この問い掛けに、こう答えることがあります。

「今朝、貴方は洗面のために蛇口をひねったでしょう。すると清浄な水が当たり前に掌を一杯にしてくれた。この水を届けているのも、行政です。」(親泊市長)

水道水のおいしき、今昔

市長 市の行政で、すべての市民の最も身近にあるものの一つが水道行政と言えます。

今では、水と言えは水道水のことだと言えほど高い普及率となっています。

そこで、今日は、この水と先生がご専門になさってます料理との係わりで、ご提言を含めてお話をいただきながら進めたいと思います。

ところで、九月に入ってもまだまだ日差しが厳しく暑い日が続いていますが、お疲れはありませんか。どうぞ、お話しに入る前にお手元のお冷やを空けて下さい。

新島 同じ水道の水でも昔の水と今では随分違うような気がします。

市長 今の水は、はるかにおいしいでしょう。

新島 そうです、そのとおりですね。

市長 今では、おいしい水を給水するためにブレンドしていますから、市内等しく北部のおいしい水の恩恵を受けております。

先日、北部で行われた会議でペットボトル入りの名護の水を飲む機会がありました。が、ほんとにおいしい水だと思いました。

その水が、時間と経費を掛けて水道水として、那覇市民に届けられている訳ですから有難いことです。

### 水についての思い出

新島 私は、八歳まで首里で育ちましたが、その当時の水についての思い出と言えば、屋敷内にあつた井戸から大人がつるべで水を汲み上げて台所の水瓶に運んでいたことで

す。

子ども心にも「大変な仕事だなあ」と思ったものです。

ただ、今でも、ふっと考えたりするんですが、お風呂のことは覚えていません、どうしていたんでしょうね。

市長 私の家族は五男一女で、男の多い世帯でしたが、お風呂と言えは、殆どが井戸端で水をしていました。

おふくろは、たぶん暗くなつてから浴びていたと思いがすが。

学生のころ柔道をしておりましたが、一汗かいた後に浴びた水の爽快さは今でもハッキリ覚えています。

屋敷内にクルマガアがあつて水について難儀した記憶はありません。水量も、私の生まれ育つた泊は豊富でした。

隣には、ラムネ工場もありましたし、そこでポンプつきの井戸で片手で柄を動かしながら、顔じゅうに浴びて飲んだ

クルマガア

水の味も忘れがたいものです。

### 水道水との出会い

市長 蛇口をひねれば水が出る水道は、泊小学校にありました。

このように便利でハイカラなものは、学校だけで当たり前と思っていました。

新島 私は、小学校の四カ年を東京で過ごしました。昭和三年の東京は、水道が家庭にも普及していましたので、当たり前のように水道水を使っていました。

つい最近、海外に旅行する機会がありまして、水について貴重な体験をしました。生水は絶対飲まないようにとの注意が何度もありました。それは下痢を起す水質であるからとのことでした。

次に、宿泊したホテルは立派な建物でしたが、入浴に不自由しました。先に入浴した人はよかったです。二人目からは、水圧が弱くなったのでしょつか、お湯が溜まらず色がついた水が出たりして、入れない状態で困りました。

日本の水道の水準の高

刊によせて――

# を語る



那覇市長

## 親泊康晴

